

森川河流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (平成28年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況				総合的な評価				特色ある活動等	活動団体 団体数 事業数	主な参考指標	
		森林に関する施策	河川・海岸等に関する施策	水質汚濁の未然防止に関する施策	環境教育の推進・県民等の自発的な活動の促進	成果	課題	今後の方向性	総合的なコメント				
盛岡	盛岡広域管内流域基本計画	●健全な森づくり H27年度、森林間伐面積は1,440haと前年度に比較して大幅に増加した。また、H28年度、森林ボランティア参加人数も2746人と目標を達成しており順調である。今後も毎年度目標達成に向けて継続した取り組みが望まれる。	●生き物や人にやさしい川づくり 身近な水辺空間の環境保全等に主体的に取り組む団体は、H27年度に続き平成28年度も同数の7団体であった。	●水質の良好な保全 平成27年度、水質汚濁防止率は86.0%と前年度に比較して数値が伸びており、概ね順調に推移している。また、河川・湖沼の環境基準達成率及び環境基準指定河川の水質BOD2mg/L以下の割合(%)は100%であり、良好な水質を維持している。	●環境学習の推進 環生生物調査参加団体は、水生生物調査を支援する団体の活動の効果により、平成28年度は47団体と目標値(35団体)を大きく上回っている。 ●森・川・海フェスタを開催し、環境活動応援キャラクター「りば〜るくん」命名式や環境ミニセミナー、環境保全活動団体の紹介等を行い、県民に広く周知を行った。 ●計画の見直しにより管内の2つの流域基本計画を一本化したことで、情報の共有化が可能となった。	●主要な取組の状況のとおり、健全な森づくり、生き物や人にやさしい川づくり、水質の良好な保全とも順調な取り組み状況であった。 ●水生生物調査の参加団体数も目標値(35団体)を達成した。	●森・川・海のそれぞれの活動を繋げる取組(連携強化)が必要である。 ●環境保全活動団体の中には、人手や資金が不足している団体が多い。また、団体構成員の高齢化がみられる。	●環境活動応援キャラクター「りば〜るくん」を活用し、環境保全活動等の支援を行う。 ●次世代のリーダー育成を目的とした養成講座の開催、事業者、団体、住民参加型のセミナー開催等により環境保全活動の活性化を図る必要がある。	●主な取組の指標に関しては、全体的に良好に推移している。 ●個々の環境保全活動がそれぞれの地域でなされている中で、連携した活動を実施している団体もある。さらに、広域振興局のホームページ「流域情報ネットワーク」などを活用して市民団体等の活動の活性化を図ることとした。	●H28年度水と緑を守り育てる活動知事感謝状贈呈 岩手県米代川漁業協同組合 ●H28年度水資源功績者表彰(国土交通省大臣表彰) 水郷小学校リバーキッズクラブ ●環境活動応援キャラクター作成 地域経営推進費を活用し、流域基本計画周知用クリアファイルを作成し、会議やイベント等の機会を捉えて環境保全活動団体や一般来場者への配布を行った。 また、環境活動応援キャラクター「りば〜るくん」ぬいぐるみの作成を行った。	97	97	●森林ボランティア参加数 H28: 2,746人 (H30目標: 2,400人) ●環境保全型農業取組面積 H28: 817ha (H30目標: 1,000ha) ●農地維持活動面積 H28: 71% (H30目標: 79%) ●身近な水辺空間の環境保全などに取り組む団体数 H28: 7団体 (H37目標: 13団体) ●水生生物調査参加団体数 47団体 (H30目標: 35団体)
	アデルイの里水と緑の推進計画	●植樹、間伐等の森林整備事業 各団体の植樹・間伐等の森林整備事業は、林務部が実施する「企業の新緑づくり」で計画以上の効果を上げている。また、団体が実施する植樹活動でも、企業と協定を結び実施することになったものなど、新たな展開がみられたものについては、順調に取組が進められた。 一方、団体のみで実施しているものの中に、植樹を中断するなど、活動が停滞しているところもあり、この部分についても、分野を超えた連携協働を進める必要があると考える。	●河川清掃、河川パトロール 流域協議会構成団体等が独自に河川清掃、パトロール等を実施したほか、土地改良区の管理水路について地域や団体がアドプト協定を結び、農業用水路の清掃活動等を実施(38団体とアドプト協定締結)する等、地域の住民や企業が河川環境の維持に努めた。	●水質保全対策の推進 事業所排水による水質汚濁を防止するため、市、町及び広域振興局保健福祉環境部が排水測定を実施した。生活排水対策として、市、町及び広域振興局土木部で、水質汚濁防止対策の整備を進めた。	●環生生物調査などの環境教育の推進 管内の小・中学生、地区子供会等が水生生物調査を実施している。平成28年度は報告があったものだけで17団体が調査を行った。 ●水生生物調査の講師として、市、町、広域振興局職員が出席講座を行う他に、地域の環境アドバイザーの派遣、人材育成事業に参加した方々に補助講師として参加していただくなど、各団体が協力体制を構築するとともに、経験の少ない方には指導方法などを実地で体験していただく機会とした。 ●平成18年に策定した流域基本計画の計画期間が終了したため、平成28年度から10か年を計画期間とする新たな基本計画を策定した。	●協議会を構成する各団体が森林整備や河川環境保全、児童等への環境学習支援等の取組を実施した。 ●環境保全に取り組む人材育成の一環として、地域経営推進費を活用した環境リーダーの育成事業(水生生物調査、水鳥の観察等の研修)を実施し、育成した人材を県の環境アドバイザーに推薦した(2名)。 ●県南圏域環境交流フォーラム(企業、一般、環境団体、行政等あわせて100名参加)を開催し、環境保全活動の紹介などを行うことで、環境保全分野における協働連携のきっかけづくりとなった。	●環境団体の高齢化が進み、活動の休止、停滞がみられるため、新たな活動団体の発掘や、団体間の情報交換と連携を図り、活動を支援していく必要がある。	●育成した人材を地域の環境活動に繋げる等の支援を継続して実施する。 ●優れた環境保全活動や自然保護活動等の取組の奨励を図るほか、企業と環境保全団体等との協働連携体制の構築を図る。 ●指標の達成状況や関係機関における環境保全活動の実施状況等を踏まえて、流域基本計画の必要な直しを行っていく。	●地域経営推進費を活用した人材育成の取組は、地域の環境保全活動を行う新たな人材を確保する一助になる等、流域基本計画の目標達成に向けて概ね順調に推移している。		22	22	●環境保全に取り組む人材育成事業の実施回数 H28: 2回(目標: 毎年1回) ●水生生物調査実施件数 H28: 17回(目標: 毎年20回) ●工場(製造業)の排水基準適合率 H28: 94.4% (目標: 100%)
県南広域	豊沢川流域ビジョン	●豊沢ダム上流部のブナ原生林の保護活動 「花巻のブナ原生林に守られる市民の会」及び地元住民が中心となり、保護活動や子供たちを対象とした自然体験学習を行っており、今後も継続して活動を行う。	●豊沢川流域の河川清掃 地元住民が中心となり、事業者、行政が協力して、豊沢川流域の河川数の清掃を実施している。 また、その他に春に豊沢ダム周辺に捨てられた廃棄物の撤去作業を実施しており、今後も継続して活動を行う。 ●北上川流域の河川清掃 北上川河川数の清掃活動を定期的に実施しており、今後も継続して活動を行う。	●親水活動の促進 夏休み期間中、子供たちを対象に水に親しむ活動(カッパ天国等)を行っている。 また、冬季の自然観察や雪遊びも継続して実施している。	●地元住民が組織する「豊沢川活性化・清流化事業推進協議会」を中心として、豊沢川流域や豊沢ダム周辺の清掃活動など自然保護活動や親水活動等が、毎年、継続的に行われている。 また、花巻市内の中小河川においても特色ある活動が各団体により精力的に行われている。	●団体が活動するための資金の調達 ●他の流域との活動連携	●他の流域基本計画が策定された河川流域との連携	●花巻地区の中心となる河川流域であり、これまで、地元住民団体が中心となって様々な環境保全活動を精力的に行っている。 平成28年度は2月に流域部会を開催し、当該年度の活動をとりまとめた。 今後、計画に基づく施策の推進状況を部会や研修会の開催を通じて評価していく。	●環境大臣表彰 ●花巻のブナ原生林に守られる市民の会(平成12年度地域環境保全功労者表彰) ●豊沢川活性化・清流化事業推進協議会(平成28年度地域環境美化功労者表彰) ●知事表彰 ●花巻のブナ原生林に守られる市民の会(平成10年度環境保全功労者知事感謝状贈呈) ●豊沢川活性化・清流化事業推進協議会(平成24年度環境保全活動知事表彰(水環境・水資源部))	6	22	●親水活動参加人数 H28: 485人 (H36目標: 512人)	
	葛丸川流域ビジョン	●たろし滝の計測、河川数の草刈、清掃の実施 たろし滝の計測や河川数の草刈、清掃については、地元住民が中心となって例年実施しており、今後も継続していく予定としている。 ●淡水魚の放流事業 稚魚の放流により葛丸川の清流化を推進し、淡水魚類の繁殖保護に努めており、今後も継続していく予定としている。	●自然とのふれあいの促進 例年、ホタル観察会や釣り大会などが開催されており、今後も継続していく予定としている。	●自然とのふれあいの促進 例年、ホタル観察会や釣り大会などが開催されており、今後も継続していく予定としている。	●「たろし滝保存会」及び「葛丸川淡水魚愛護組合」の活動を中心に、たろし滝の計測や淡水魚の繁殖保護活動等を通して、自然環境保護の啓発を行っている。	●限られた団体のみが活動を行っている。 ●活動の広がりがない。	●活動団体の把握と賢治葛丸祭への参加を促進するとともに、他流域との交流を図る。	●たろし滝を中心とした活動や夏場の釣り大会、賢治葛丸祭など、毎年、定期的な行事が行われている。 平成28年度は2月に流域部会を開催し、当該年度の活動をとりまとめた。 今後、計画に基づく施策の推進状況を部会や研修会の開催を通じて評価していく。 なお、賢治葛丸祭などの取組を通じ、次世代に育つ流域人材の育成に取り組む必要がある。	●知事表彰 ●大瀨川たろし滝測定保存会(平成20年度環境保全活動表彰(水資源部)) ●毎年、冬に行われる大瀨川上流のたろし滝の水柱測定は、地域の有名な恒例行事となっている。	4	9	●親水活動参加人数 H28: 123人 (H36目標: 100人)	
花巻	稗貫川流域ビジョン	●森と湖に親しむこどもまつり 花巻土木センターが主催し、湖沼パトロールや魚のつかみ取りなどにより次代を担う子供たちに対する啓発を行っており、今後も継続して活動を行う。 ●淡水魚の放流事業 稚魚の放流により稗貫川の清流化を推進し、淡水魚類の繁殖保護に努めており、今後も継続していく予定としている。	●地元の小学校による環境学習の推進 自然観察会や水生生物調査が実施されており、今後も継続して活動を行う。	●地元の小学校による環境学習が継続的に行われている。 また、毎年7月に早池峰ダムを中心としたイベントが開催されており、次代を担う子供たちに対する啓発を行っている。	●リーダーシップをとる団体等がない。 ●地元での活動が一般にあまり知られていない。	●早池峰ダムを中心としたイベントを行い、次代を担う子供たちに対する啓発を継続しつつ、流域全体及び他流域との連携した取組を促進する。	●早池峰の環境保全、地元の小学校による環境学習、また花巻土木センター主催による啓発活動などが行われているものの、他の流域と比較して流域全体に係る団体数・事業数が少ない。 平成28年度は2月に流域部会を開催し、当該年度の活動をとりまとめた。 今後、計画に基づく施策の推進状況を部会や研修会の開催を通じて評価していくとともに、地元住民、事業者を巻き込んだ活動を行うことで、事業に広がりを持たせる必要がある。	●知事表彰 ●早池峰にゴミは似合わない実行委員会(平成13年度水資源功績者等表彰) ●知事感謝状 ●亀ヶ森小学校(平成14年度環境保全功労者知事感謝状贈呈)	4	8	●親水活動参加人数 H28: 104人 (H36目標: 40人)		
	猿ヶ石川流域ビジョン	●野鳥の会による自然観察会 とうや野鳥の会を中心とする団体により、単に野鳥の観察にとどまらない総合的な自然観察会として開催。(水生生物調査も実施)。 ●水源の森プロジェクト 等畑高原(遠野市)において、青林活動(植樹・苗木の成長記録)を年間4回行うことにより水源地の保全に取り組んでおり、今後も継続していく予定。	●ごみ川柳大会 猿ヶ石川の河川清掃後に参加者が川柳を詠むことにより環境保全を啓発するというユニークな活動であり、平成25年度からは田瀬湖一斉清掃&ごみ川柳大会として下流域の花巻市民も巻き込んだ活動となっている。 ●水辺の環境保全 宮守川、山谷地区などで地元住民による河川環境の保全が行われており、ホタルが舞う環境が維持されており、今後も継続していく予定。	●ダム湖の環境改善 田瀬ダムにおいてアオコが発生が見られることから、暴風装置を導入して水質保全に取り組んでいる。 ●環境フォーラム開催 小中学生の標語コンクール、写真コンテストや講演会の開催などにより、市民の環境に対する理解を深め、環境保全意識の高揚を図っている。 ●水辺環境の保全活動 矢沢地域における里山の希少生物保護活動について、さらなる地域住民の意識醸成と活動資金の確保に向け、関係者の協働体制を検討している。 同地域で保全活動しているゼンタナゴは、平成22年に県の天然記念物に指定・登録されている。	●平成23年度に統合した流域ビジョンにおいて、活動指標の一部に未設定の項目があったことから、指標を中心に流域ビジョンの見直しを行ったほか、上下流の活動団体間の交流を深めるため、合同の流域部会、研修会等を実施した。 ●下流下流の連携体制が深まることが望ましい。	●猿ヶ石川の上下流域で共通した活動を通じて交流を深めることにより、流域全体の環境保全活動について一体感と広がりを実現する。	●花巻及び遠野流域協議会の統合を機に、流域上下流間の団体の連携を図り、研修会、魚類等生息調査などの環境調査を実施してきた。 平成28年度は6月及び2月に流域部会を開催し、流域ビジョンの見直しと当該年度の活動をとりまとめた。 今後、計画に基づく施策の推進状況を部会や研修会の開催を通じて評価していく。	●知事表彰 ●矢沢地域の自然保護を考える会(平成18年度水資源功績者等表彰) ●矢沢地域におけるゼンタナゴの保護等里山の生態系の保全活動を通じて、地域住民の環境に対する意識の啓発に取り組んでいる。 ●環境省水・大気環境局長表彰 ●矢沢地域の自然保護を考える会(平成23年度水・土壌環境保全活動功労者表彰) ●(社)日本環境学会 ●NPO法人イーハトーブ里山水棲生物保存会(2011年度水環境文化賞) 北限のメダカやゼンタナゴの保護を目指して各種活動を実施。花巻市内に保護と観察を目的としたビオトープ「とうやメダカの里」を整備し、自然観察会などの場所として提供している。	18	35			

森川流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (平成28年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況				総合的な評価				特色ある活動等	活動団体		主な参考指標	
		森林に関する施策	河川・海岸等に関する施策	水質汚濁の未然防止に関する施策	環境教育の推進・県民等の自発的な活動の促進	成果	課題	今後の方向性	総合的なコメント		団体数	事業数		
一 関	わが川流域水循環計画	●森林ボランティアによる枝打ち等の森林整備の実施 花巻農林振興センターが主体となつて広葉樹の手入れやスギの間伐等を小学生等を対象に毎年度実施しており、今後も継続して行う。	●河川立木のスポットの伐採の実施 北上土木センターが主体となつて、和賀川流域の河川立木伐採計画を基に継続して実施している。	●農地・水環境保全活動の実施 用水路の水質検査を実施し、農業用水の水質保全に努めているとともに、地域資源や農村環境を次世代に引き継ぐため、多様な主体の参加による効果の高い共同活動の推進を図っており、今後も継続して実施する。	●自然とのふれあい 里山体験やわんぱく教室など、子供たちが自然にふれあい、その大切さを学ぶ活動が多数実施されており、今後も継続して実施する。 ●河川ハトロール及び河川清掃 和賀川の清流を守る会が主体となつて年2回湯田ダム上下流域で開催しているほか、一般市民を対象にした自然探索会を開催している。(今後も継続)	●「和賀川流域のきれいな水循環を推進する協議会」の構成団体によるホタル観察会や清掃活動など各々の取組みが定着してきており、構成団体を中心として情報の発信や、各種取組みを通じて森や川に接する場を子ども達に提供するなど環境教育活動が継続されている。 ●環境NPO法人である「NPO法人わが流域環境ネットワーク」を中心に、各種環境教育活動や調査活動が行われている。 ●和賀川の清流を守る会(事務局:北上市)や湯田ダムビジョン推進協議会と連携を図りながら流域の各種取組みに関し、定期的な活動が継続されている。	●行政と住民に企業(事業者)を加えた形での各種取組みが図られるような基盤整備が望まれるが、活動団体が固定化しており、新たな団体の掘り起こしが必要であるとともに、新たな視点からの事業を展開していく必要がある。	●新しい活動団体を掘り起こし、和賀川流域のきれいな水循環を推進する協議会構成団体、NPO法人や行政等が、流域計画に掲げる4つの目標に向けて一歩一歩着実に取組んでおり、徐々にその成果があがっている状況にある。 ●平成28年度は2月に流域部会を開催し、当該年度の活動をとりまとめた。今後、計画に基づく施策の推進状況を部会や研修会の開催を通じて評価してゆく。	●知事感謝状 ・NPO法人わが流域環境ネットワーク(平成21年度水と緑を守り育てる活動知事感謝状) ●国土交通大臣表彰 ・和賀川の清流を守る会(平成26年度水資源功労者表彰)	23	59			
	育もう恵み豊かな森と水 磐井川流域プラン	●森の整備等 森林の保全のため、造林、間伐等の取組が目標に対して停滞している。 また、各団体による植樹等の活動が活発に行われており、取組事例等の情報提供、支援を行っている。	●河川ハトロール、清掃活動 地域住民、団体、企業等による清掃活動が活発に行われており、取組事例等の情報提供、支援などを行っている。		●環境教育の推進等 環境活動指導者養成(委託事業)や各種団体による自然観察会などで、水環境の理解が深まってきている。更に今後は、各種団体の連携を図るとともに、その取組み並びに活動の幅を広げることについて支援していく。 ●生物モニタリング調査等 小学校等における水生生物調査は定着してきている。	●きらめく水環境を保全・創造する協議会、その他活動団体の自主的な取組が徐々に進み、連携意識が向上してきている。 ●対象地域内では水生生物調査など環境教育の取組が行われており、各地域での継続的な環境活動の基盤となっている。 ●河川の水質は、概ね良好な水質が維持されている。	【3流域共通】 ●地域内では、地元NPOが活動を行っているもの、流域協議会事務局は県南広域振興局(一関センター)で行っており、協議会活動の核となるNPOが十分に育っていないことから、活動の広がりが見込めない。 ●経済的に苦しい状況の下で活動している団体が多く、安定的な資金の獲得に苦慮している。	●対象地域内で中心的に活動するNPOの育成を目指す。 ●年度内に流域基本計画を統合し、将来的には東西両岸地域の協議会の統合を目指す。	●地域住民が主体となった健全な水循環の確保に向けた取組は活発に行われており、目標に向け相応の効果が上がってきている。		24	58	【3流域共通項目】 ・川上・川下交流連携行事 H28:10回(H28目標:10回) ・森林ボランティアによる森林整備面積 H28:44.2ha(H28目標:38.6ha) ・森林ボランティア延べ活動人数 H28:3,909人(H28目標:2,331人) ・森林・林業教室開催日数 H28:52日(H28目標:26日) ・水生生物調査団体数 H28:8団体(H28目標:14団体)	
	育もう恵み豊かな森と水 花と泉のふるさと 金流川流域プラン													
	育もう恵み豊かな森と水 古都平泉の清流 太田川流域プラン													
	東磐井の里・健全な水循環をめざす流域基本計画	●森の保全等 森林の保全のため、間伐等を推進しているが、目標に対し停滞している。 一方で、各団体による植樹等の活動が活発に行われており、取組事例等の情報提供、支援を行っている。	●農地の多面的機能の維持 水田の整備は目標を達成しつつある。アドプトによる地域住民参加の土地改良施設清掃の取組が行われている。		●環境教育の推進 環境活動指導者養成業務(委託事業)や各種団体による自然観察会などで、水循環の理解が深まってきている。 ●東磐井の里・健全な水循環をめざす協議会、その他活動団体の自主的な取組が徐々に進み、連携意識の向上してきている。 ●対象地域内の河川では、小学校等における水生生物調査が行われ、その結果は、概ね良好な水質となっている。	●磐井の里・健全な水循環をめざす協議会は、県南広域振興局(一関センター)が事務局を行っており、協議会活動の核となるNPO等が十分に育っていないことから、活動の広がりが見込めない。 ●水生生物調査などが活発に行われてきたが、児童数の減少による小学校の統廃合により、参加団体数および参加人数が減少傾向となっている。 ●経済的に苦しい状況の下で活動している団体が多く、安定的な資金の獲得に苦慮している。	●対象地域内の中心となるNPOの育成を目指す。 ●水生生物調査については、学校以外の自治会等団体による取組についても支援してゆく。 ●年度内に流域基本計画を統合し、将来的には東西両岸地域の協議会の統合を目指す。	●地域住民が主体となった健全な水循環の確保に向けた取組は活発に行われており、目標に向け相応の効果が上がってきている。	●環境大臣表彰 ・弓手川結いネットワーク(平成29年度地域環境保全功労者表彰)		21	46	・河川のBOD環境基準達成率 H28:100%(暫定)(H28目標:100%) ・畜産公害発生率 H28:3件(H28目標:0件) ・堆肥整備率 H28:100%(H28目標:100%) ・水生生物調査団体数 H28:14団体(H28目標:18団体) ・環境保全型農業の取組数 H28:9地域(H28目標:10地域)	
	釜石・大槌地域流域ビジョン(唐丹流域)	●補植を実施するための道路の刈払い 実施なし。 ●環境の森創造事業(育樹) 実施なし。				●活動なし(震災により、活動団体及び地域が被災)。	●構成団体及び地域の多くが震災により被災していることから、活動可能な団体の確認と再構築が必要。なお、流域ビジョン改訂に向けた情報共有も必要。	●流域ビジョン改訂に向け、他の保全の会との情報交換及び連携した取組を検討する。	●課題に同じ。	●知事感謝状 ・唐丹地区流域環境保全の会(平成21年度水と緑を育てる活動知事感謝状) ●局長感謝状 ・唐丹地区流域環境保全の会(平成20年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状)	21	0		
	釜石・大槌地域流域ビジョン(鵜栗流域)		●小学校のクリーン作戦に併せた清掃活動 実施なし。							●局長感謝状 ・鵜栗地域環境保全の会(平成21年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状)	42	0		
	沿岸広域 釜石・大槌地域流域ビジョン(大槌・小槌流域)	●育樹活動 実施なし。	●河川・漁港清掃活動 実施なし。		●環境塾(水生生物調査)の実施 実施なし。					●局長感謝状 ・大槌・小槌流域環境保全の会(平成20年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状)	61	0		
	釜石・大槌地域流域ビジョン(吉里吉里・浪板地域)	●EM液投入 実施なし。 ●海岸一斉清掃 実施なし。			●町内各小学校へのプール清掃への支援 実施なし。 ●EM泥団子作り、泥団子の投入 実施なし。					●局長感謝状 ・吉里吉里・浪板地域環境保全の会(平成21年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状)	57	0	・吉里吉里海岸海水浴場調査 H28:水質A(H28目標:水質AA)	
	釜石・大槌地域流域ビジョン(甲子川・小川川流域)				●環境ハトロール 釜石市内甲子川河川沿い(陸中央端)で実施。	●平成29年3月24日に、釜石市内甲子川河川沿い(陸中央端)の環境ハトロールを行った。	●継続的に自立運営していくための財源がない。また、独自の会計機能を有していないため、各助成金等を受けることが出来る組織作りが必要。 ●構成団体、活動内容の見直しが必要。	●各構成団体間の取組みの連携を図る。 ●流域ビジョン改訂に向け、他の保全の会との情報交換及び連携した取組を検討する。	●地域住民が主体となった清掃活動が行われる等、目標に向けて概ね順調に活動している。一方で、活動に関わるメンバーが固定化されているため、活動内容の見直し、各団体、個人への周知の仕方を考える必要がある。	●局長感謝状 ・甲子川・小川川流域環境保全の会(平成22年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状)	55	3		

森川流域基本計画の成果等の評価 一覧表 (平成28年度)

振興局等	基本計画名	主要な施策の進捗状況				総合的な評価				特色ある活動等	活動団体 団体数 事業数	主な参考指標	
		森林に関する施策	河川・海岸等に関する施策	水質汚濁の未然防止に関する施策	環境教育の推進・県民等の自発的な活動の促進	成果	課題	今後の方向性	総合的なコメント				
大船渡	大船渡市三陸町地域流域基本計画	●森林等の水源かん養機能の向上・保全 豊かな海を育む大きな森づくり事業により、アオダモ600本とブナ300本を植樹した。			●環境教育・環境学習の推進 水生生物による水質調査参加人数は、指標を下回り、減少傾向が続いている。自然観察会・博物館スクール受講生には、指標を上回る生徒の参加があり、増加傾向である。	●「健全な森林づくり」のための間伐や再造林、「清らかな河川づくり」のための水質汚濁防止という各指標は、目標値を達成又はほぼ達成している状況である。	●活動団体や地域が被災したことから、環境保全活動を休止している状態である。会長が空席となったため、平成28年度は三陸町地域の美しい水環境をつくり守る協議会を開催できなかった。	●今後の協議会の活動・方向性を再構築するため、構成団体の意向を調査する。	●「健全な森林づくり」が「清らかな河川づくり」に推移している。環境を守る人々については、環境保全活動を止める団体も出たが、休止していた環境保全活動を再開する動きも出始めているので、期待したい。		7	25	・出前講座・受講生徒数 H28: 19人 (H28目標: 60人) ・植樹: 本数 H28: 900本 (H28目標: 2,100本)
	大船渡湾水環境保全計画		●河川環境の保全 県(土木センター)が河川環境維持活動団体7団体に活動のための作業用品等支給し、延べ681人が河川敷の草刈清掃、支障木伐採及びゴミ拾いを行った。参加人数は増加傾向にある。	●生活雑排水対策 大船渡市が、市内の2小学校で、冬休み期間中に「エコライフ」の取り組みを実施し、意識が高まるよう啓発を行った。	●水生生物による水質調査等 水生生物による水質調査により、水環境保全について理解を深めた。総参加人数は23人で、指標を下回り、また、平成27年度と比較して横ばいである。参加団体が1団体にとどまっていることから、引き続き掘り起こしを図りたい。	●大船渡湾水環境保全計画推進協議会を1回開催(27/7/13) ・重点施策の平成26年度取組実績及び平成27年度取組計画を報告した。 ・今後の協議会活動の課題や方向性について意見交換を行った。 ・54指標中、目標値を達成又はほぼ達成したものが25指標であった。	●多くの活動団体が震災により被災したため、重点施策には震災の影響で実施できないものが、まだ、数多くあった。 ●多くの活動団体が震災により被災したため、重点施策には震災の影響で実施できないものが、まだ、数多くあった。 大船渡湾の湾口防波堤が復旧したことに伴い、海水交流に変化が生じる可能性があること、また、湾内の水産養殖施設の復旧に伴い工場排水等による湾内水質への負荷増大が予想されることから、海水交流の変化と水質の変化についての継続的な監視が必要である。また、これらの変化を見据えながら、今後の協議会の活動・方向性を再構築する必要がある。 学区単位等の地域で活動する団体はあるが、地域横断的に活動する団体が少ない。	●新しい大船渡湾の湾口防波堤には、湾内の水質悪化を抑制するために外海との海水の交流口が設けられるが、今後も大船渡湾内の水質変化を監視していくとともに、市民・行政・事業者が一体となり環境保全に取り組むことが必要である。 地域横断的に活動する団体を育成するため、地域横断的に行っている環境保全活動に係る情報を流域協議会等の機会に発信する。	●森林等の水源かん養機能の向上・保全や水辺の多様な生態系の確保については概ね順調に進んでいるものが多いが、引き続き排水対策を推進していく必要がある。	●一般社団法人CEPAジャパン 大船渡市立末崎中学校(生物多様性アクション大賞2016特別賞(グリーンウェイブ賞)を受賞)	10	14	・水生生物調査参加人数 H28: 23人 (H28目標: 200人) ・河川環境維持活動団体参加者数 H28: 681人 (H28目標: 400人以上)
宮古	気仙川流域基本計画			●汚水処理施設の整備促進 汚水処理施設整備率は67.7%で、震災以前(平成22年度実績)に比べると、増加傾向にある。平成29年度の目標値(77.1%)には達していないが、被災した排水施設や処理施設の復興により、さらなる整備率の増加が期待できる。	●気仙川流域基本計画推進協議会を1回開催(28/9/8) ・重点施策の平成27年度実績と平成28年度計画を報告した。 ・今後の協議会活動の課題や方向性について意見交換を行った。 ・76指標中、目標を達成又はほぼ達成したものが33指標であった。	●活動団体や地域が震災により被災したことから、活動の大部分が休止している状態であり、今後の協議会の活動・方向性を再構築する必要がある。	●復興事業の進展により生活環境が変化していることで、計画期間途中での重点施策の見直しが必要になる可能性がある。 ●地域横断的に活動する団体を育成する。	●計画における施策の推進方向に掲げる「けせん」の森を育てる「けせんの里」を利用する「けせんの清流を守る」「けせんの海を守る」については指標の達成状況から概ね順調に進んでいると評価できるものが多いが、「けせんの資源を利用する」「けせんの人を育てる」についても指標が達成できるよう推進していく必要がある。		19	35	・森林体験教室等の参加人数 H28: 442人 (H28目標: 60人) ・炭焼き体験参加人数 H28: 20人 (H28目標: 100人)	
	宮古・下閉伊地域流域ビジョン	●植林、育樹作業 管内には自主的かつ定期的に活動している団体が多い。市町村の広報等を通じて参加者を募るなどして、活発に活動している。今後も支援を行っていききたい。	●河川清掃、海岸清掃 震災前に地域活動を行っていた住民が被災し、仮設住宅等に転居せざるを得ない状況であり、ボランティア活動が震災前よりも行えない状況が依然として続いている。しかし、震災後も積極的に清掃活動を行っている団体があることから、河川及び海岸清掃活動を震災前の水準に戻すために、これらの団体への支援を続けていきたい。	●水質調査、公害防止協定の締結 水質調査は、震災前(平成22年度実績)に比べると、増加傾向にある。平成29年度の目標値(77.1%)には達していないが、被災した排水施設や処理施設の復興により、さらなる整備率の増加が期待できる。	●環境学習の推進 昨年度と同様に小学校単位での環境教育は充実している。地域経営推進事業等による環境団体への活動支援を今後も継続していききたい。	●ビジョンでは、流域基本計画に掲げる7つの重点プロジェクト(森の再生、川と海の環境整備、水質保全、不法投棄防止、安全安心、資源循環型産業育成、環境学習の推進)の達成状況について、14の指標で評価している。このうち7の指標(BOD環境基準達成率、COD環境基準達成率、海水浴場の水質(水浴達成割合)、新たな不法投棄(10t以上)、カキ殻再資源化率、小中学校の環境学習実施率、環境ボランティア団体数)について、目標を達成した。	●住民が被災したことにより、これまで活動を行っていた河川及び海岸付近から仮設住宅等に転居せざるを得ない状況にあるため、震災前より地域のボランティア活動に参加できない状況にあることから、ボランティア回数の目標値を達成できていない。 ●汚水処理施設については、東日本大震災により漁業集落排水施設や合併処理施設等が被災したことにより、汚水処理率が低下している状況にある。 ●エコファーマー認定者数が減少傾向であるが、これはエコファーマーの認定有効期限を過ぎても更新しない農家が増加しているためである。 ●平成29年度目標に向かってのさらなる事業の進展が必要となっている。	●東日本大震災津波からの復興に伴い、それぞれの課題については解決しつつあるものの、台風10号による被害も受け付けたため、震災前の状況に戻るまでは、まだしばらく時間を要する。 今後関係機関や団体の支援を継続し、計画期間内での目標達成を目指す。	●震災や台風等災害の影響を強く受ける指標を中心として、やや遅れている。 ●第2回宮古・下閉伊地域「森・川・海」保全・創造功労者表彰 <H28表彰団体> ・杉枝 武雄 ・宮古市子ども会育成会連合会	・河川清掃ボランティア回数 H28: 111回 (H29目標: 19回) ・海岸清掃ボランティア回数 H28: 12回 (H29目標: 33回) ・新たな不法投棄(10t以上)の件数 H28: 0件 (H29目標: 0件) ・いわて道のボランティア活動等支援事業及びいわて川と海岸ボランティア活動等支援制度参加団体数 H28: 1団体 (H29目標: 10団体) ・エコファーマー認定者数 H28: 44人 (H29目標: 157人) ・小中学校の環境学習実施率 H28: 100% (H29目標: 100%) ・環境ボランティア団体数 H28: 41団体 (H29目標: 38団体)			
東北広域	久慈地域流域基本計画	●森林教室、植樹 森林教室や植樹活動が行われている。各団体で行われるこれらの活動について、協議会の中で情報共有等を行い、一体となって活動していけるよう支援を行う。	●河川の清掃、沿岸部の清掃 多くの団体が自主的に清掃活動を企画し、清掃活動全体でのべ49,521人が活動に参加した。今後も各団体及び地域住民が主体となって継続していく予定。	●水質調査、公害防止協定の締結 久慈市条例に基づく公害防止協定や振興局による水質調査により、公害防止に努めている。今後も行政主導の取組を継続していく。	●水生生物調査等 小中学生を対象とした水生生物調査や水遊びを行い、環境教育の推進を行っている。今後も各団体及び地域住民が主体となって継続していく予定。	●多数の団体が清掃活動に参加し、参加者の環境保全に対する意識が向上した。 ●水生生物調査の普及・定着を図り、調査方法・水質評価方法を学ぶ出前講座、調査道具の貸出しを行った。 ●森林環境保全意識の高まりを期待し、次世代を担う子どもたちに対し森林教室や自然観察会等を行った。	●団体ごとに活動状況に差がある。また、活動を継続していくための次代の育成に課題を抱えている団体が多い。 ●現況が目標値と大きく乖離している項目がある。	●環境アドバイザー等、環境リーダーの育成を図る。 ●流域協議会構成団体を対象に講習会等を開催し、活動の方向性の共有や、活動の質の向上を図る。 ●3流域計画を統合した新しい流域基本計画(平成28年度～)に基づく取組を展開する。	●東日本大震災による影響で減少した全体の活動回数は近年は活動状況が概ね震災以前の状況に回復しつつあったが、台風10号の影響による影響で平成28年度は再び減少した。今後は各団体の活動の更なる活性化と連携した取組の推進を期待する。	●環境大臣表彰 大野の自然を守る会(洋野町)(平成29年度地域環境美化功績者表彰)	44	86	・清掃ボランティア回数 H28: 57回 (H33目標: 510回) ・いわて地球環境にやさしい事業所認定数 H28: 5団体 (H33目標: 5団体) ・森林面積 H28: 89,503ha (H33目標: 89,753ha) ・自然観察会等回数 H28: 29回 (H33目標: 77回) ・河川水質環境基準(BOD・COD)達成率 H28: 92.9% (H33目標: 100%) ・汚水処理人口普及率 H28: 59.0% (H33目標: 84.0%) ・家畜排せつ物管理施設整備率 H28: 100% (H33目標: 100%)
	カシオペア連邦流域ビジョン	●健全な森林づくり 平成28年度は300haの間伐を行った。(累計8,181ha) いわての森林づくり県民税を活用した「森林づくり県民税」を促進事業の一環としてカシオペアフォレストスクール事業を実施し、森林学習会(15校、21回、児童延べ477名)に講師派遣等の支援を行った。 今後も同様の取組を継続する。	●健全な川づくり 地域住民や川を守る会、漁協、土地改良区、市町村が、河川や農業用水路等の草刈清掃活動を、個々に、又は協働で取り組んでおり、今後も同様の取組を継続する。	●良好な水質保全 公共用水域水質測定計画に基づき水質測定を行った2戸管内7河川10地点については、環境基準(BOD)を達成し良好な水質を維持した。 下水道、浄化槽の整備に係る目標指標「水質汚濁削減」は着実に伸びている。 今後も水質保全の活動を継続する。	●環境学習の推進 管内小中学校全てにおいて、校務分掌に環境教育を位置づけ、水質調査・森林学習・植林・クレーン清掃等の活動を取り入れ、学習を深めている。 特に、森林学習と水生生物調査の取組指標「水質汚濁削減」は着実に伸びている。 また、地元民間の環境団体との共催による「環境フェスティバル」を開催し、特に若年層を中心に地域住民等への情報発信と人材育成に努めた。 今後も環境学習の推進に取り組んでいく。	●地域の森林や河川等に関する学習が管内の全小中学校全てで取りまれているなど、地域の自然環境を生かした環境学習が推進されている。 ●水生生物調査や公共用水域水質測定の結果、管内河川では良好な水質が維持されている。 ●地元民間の環境団体と協力し、平成27年度に引き続き環境フェスティバルを開催したところ、若年層から多くの参加が見られた。	●各団体とも環境保全活動を継続・持続して実施しているが、反面、活動内容の固定化が見受けられることから、管外で行われている活動等を参考として新たな活動を模索するなどにより活動を活性化することが求められる。 ●継続して実施している効果ある活動は、持続させる。 ●情報の共有化を図り、連携し協働することにより、効果的かつ効果的な事業の実施や支援に努める。 ●多様な年齢層に環境への関心を持ってもらえるような取組の推進に努める。	●平成27年度までの実績を基に作成した本ビジョンを指針とし、目標を達成するよう取組を進める。(進行状況は概ね順調)	●森林間伐面積・累計 H28: 8,181ha (H37目標: 16,783ha) ・多自然型川づくりによる改修・整備済延長 H28: 19.7km (H37目標: 25.6km) ・BOD環境基準達成率 H28: 100% (H37目標: 100%) ・水質汚濁削減率 H28: 44.0% (H37目標: 53.8%) ・環境保全型農業直接支払制度における岩手県特認取組等数 H28: 1 (H37目標: 1回) ・小中学校の環境学習実施校割合 H28: 100% (H37目標: 100%) ・青少年の環境保全実践活動等参加団体数 H28: 34 (H37目標: 30)				